

〈文献目録〉の作成について

山野俊郎

(1) はじめに――親鸞像の再構築に向けて――

二〇一一年、私たちは、親鸞聖人の七五〇回御遠忌を迎える。この大切な節目を控えて、真宗総合研究所では、二〇〇五年七月に「親鸞像の再構築」という研究課題のもと、御遠忌記念特別指定研究班が発足した。

御遠忌は、宗祖親鸞が入滅して、遠く歳月を経過した後、に営まれる記念の法要として、五〇年、一〇〇年という単位で、大規模に催されてきたが、折々に親鸞像が確認されてきたと言えるであろう。

近代に入って最初の御遠忌は、一九一一年（明治四四）四月に真宗大谷派で催されたが、この六五〇回御遠忌の前年には、佐々木月樵著『親鸞聖人伝』が刊行され、一方、長沼賢海著『親鸞聖人の研究』が発刊された。後の本学第三代学長・佐々木の宗教性あふれる聖人伝と歴史学者・長沼の批判的な考証による親鸞研究は、新しい時代状況のなかで親鸞像を確認した画期的な労作であり、以後の親鸞像の形成に大きく寄与した。

そしてそれから五〇年後、一九六一年（昭和三六）四月、七〇〇回御遠忌が浄土真宗各派で催された。前年には、大谷大学編『親鸞聖人』が刊行され、御遠忌の翌年には、赤松俊秀著『親鸞』が刊行されている。戦後の研究を踏まえて論

述されたそれぞれの執筆者のアプローチは、親鸞像の形成に清新な風を吹き込んだ。

歴史学者の赤松氏は、『親鸞』（吉川弘文館人物叢書）を執筆するにあたり、

この書は、同じ叢書内の他の書に比べてすこし論文めいていて、ことによると読者にご迷惑でないかと思うのであるが、この五十年の間、歴史学の進歩が常に新しい親鸞の人間像を作り出したことを思い、それになるべく副いたと念願して、あえてこの形式をとった。

と「はじめに」で述べている。すなわち「新しい親鸞の人間像を作り出し」てきた過去五〇年の「歴史学の進歩」に基づいて、本書を執筆したとしている。周知のように、ここに描かれた親鸞像は、以後の親鸞理解に大きな影響を及ぼした。

このときからさらに五〇年の歳月を経て、いま私たちは、七五〇回御遠忌を迎えようとしている。この半世紀の間に、「歴史学の進歩」には、目をみはるものがあった。歴史学の門外漢でも、顕密体制論や律令体制論などの歴史家の論議を無視して、親鸞の歴史的な位置づけについて語ることはできなくなった。

これと同時に、見落とせないのは、親鸞の研究が、広範な領域に広がってきたことである。書誌学の領域では、『教行信証』坂東本をはじめとする親鸞の諸著作の精緻な研究が進み、「信巻」別撰説なども提起された。思想の領域では、仏教学者や哲学者などによる様々な親鸞思想の検討があり、あるいは国際化の状況のなかで、鈴木大拙訳『教行信証』の出版をはじめ、異言語・異文化からの親鸞へのアプローチがあった。また、社会の領域では、いわゆるポスト・モダン的な状況のなかで生命倫理や人権論の側からの親鸞思想との活発な対話の試みがあった。

そのようななか、関連諸資料の蓄積と学的伝統において、親鸞研究のメッカともいえるべき本学が、研究の一層の前進のために、課せられている使命は大きい。この五〇年の諸研究に基づく親鸞教学の現代的な意義の再確認、そして学界への成果の公表が、多方面から期待される。

その意味で、来るべき御遠忌の前に、本研究班が、各領域の学問的成果を整理し、さらにそれらを踏まえた上で、未来の研究への展望を開く基礎を提示し、「親鸞像の再構築」に向けて作業を推進することは、実に意義深いことと思われる。^(注)

上記の研究を進めるために、本研究班では、

- ① 「史的な親鸞像の再検討」
- ② 「思想教学の検証」
- ③ 「現代における親鸞思想との出会い」
- ④ 「文献目録の作成」

の四つの柱となるテーマを立てた。これらのテーマをそれぞれ単独に取りあげるのでなく、相互に連携をとりながら研究が行われることが肝要である。このうち④「文献目録の作成」は、①～③の研究テーマをより効果的に進め、「親鸞像の再構築」に取りくむための、もっとも基本的な作業であると言えよう。

拙論では、以下、「文献目録の作成」の研究テーマを取りあげ、〈文献目録〉の作成作業について、具体的な内容や計画などを説明する。その後、作成中の〈データベース〉の一部をサンプルとして提示したいと思う。

(2) 〈文献目録〉の作成について

この「文献目録の作成」の研究テーマを推進するために、現在、電子媒体による〈データベース〉の作成を行っている。

〈データベース〉に収録する資料の年代の範囲は、一九六一年（昭和三六）四月の親鸞聖人七〇〇回御遠忌から、二〇一一年四月の七五〇回御遠忌までの五〇年間である。その五〇年間に出版されてきた（出版されるであろう）、様々な親鸞

関係の著述を網羅する〈データベース〉の作成が望まれる。親鸞研究の各部門における研究史を回顧し、研究成果を資料として活用できる——それを可能ならしめるような〈データベース〉を作成することが、この研究テーマの現在の目標である。

収録範囲としては、基本的には親鸞研究にかかわる様々な資料(学術書、一般書、学術論文、講義・講話、エッセイなど)を網羅的に収録する。具体的に言えば、①親鸞にかかわる著述、②七高僧にかかわる著述(ただし、真宗との関連で論述されたもの)、③親鸞の直弟子にかかわる著述、および、④親鸞の著述・七高僧の著述(ただし真宗教学と関連するもの)・直弟子の著述・浄土経典(浄土三部経、他)などの基本的テキスト、を収めるものとする。

次に、収録する資料の分類について述べる。まず全体を大きく(1)日本語文献(和書)の部と(2)外国語文献(洋書)の部に分ける。さらに(1)日本語文献の部を①単行本、②論文1(学術雑誌所収のもの)、③論文2(記念論文集・アンソロジー所収のもの)、④全集・叢書、の四つに分類する。このうち、④全集・叢書については、各巻に収められる論文や講話・講義・エッセイのタイトル・初出年・掲載雑誌名などを目録中に別出する。また、(2)外国語文献の部は①単行本、②論文1(学術雑誌所収のもの)、③論文2(記念論文集・アンソロジー所収のもの)、の三つに分類する予定である。しかし、英語・仏語・独語・中国語などの言語の区分けを、分類にどのように反映させていくかという問題については、まだ詳細は決まっていない。今後、洋書の〈データベース〉作成に取りくむなかで、検討を進めてゆきたい。

上に述べたように、〈データベース〉には親鸞関係の著述について、学術的な著作・論文だけではなく、一般的な講義・講話・エッセイ・書評紹介なども収録しながら作業を進めている。この〈データベース〉は近い将来、公開して広く人びとの利用に供することになるが、そのような性格上、様々な利用の仕方を想定しつつ作業に取りくんではいる。

〈文献目録〉は、〈データベース〉を基にして作成される。五〇年間にわたる親鸞関係の著作・論文の情報を蓄積する〈データベース〉に基づいて、研究の進展に資するような〈文献目録〉を作成し、最終的には二〇一一年の七五〇回御

遠忌に出版したいと考えている。

(注) 上記の文(本書頁本文一行目―157頁三行目)は安富信哉教授(本研究班チーフ)の「親鸞像の再構築に向けて」(「大谷大学真宗総合研究所研究紀要」No.47、二〇〇五年一月一日)による。

(3) <データベース>のサンプル

凡例

◎以下は、現在作成中の<データベース>の一部を、サンプルとして提示したものである。

◎分類については、まず全体をⅠ日本語文献(和書)の部と、Ⅱ外国語文献(洋書)の部に分けた。そして、Ⅰを①単行本、②論文1(学術雑誌所収のもの)、③論文2(記念論文集・アンソロジー所収のもの)、④全集・叢書、に区分し、またⅡを①単行本、②論文1(学術雑誌所収のもの)、③論文2(記念論文集・アンソロジー所収のもの)、に区分した。

◎各著述についての基本記入は、「単行本」の場合、書名・著者・編者・出版地・出版社(者)・発行年(月日)・分類とした。また、「論文1(学術雑誌所収)」の場合は、論文名・著者・「論文を収載する」雑誌名・号数・出版社・発行年・分類とし、「論文2(記念論文集・アンソロジー所収)」の場合は、論文名・著者・「論文を収載する」書名・編者・出版地・出版社・発行年・分類とした。さらに「全集・叢書」については、論文名・初出の掲載雑誌・著書・年月・分類の項目を立てた。このうち分類については、学術書、講義・講話、一般書、論文、書評・紹介、報告、エッセイの七つの分類を設けた。

◎配列にあたっては、日本語の文献を先にし、次に外国語の文献を排した。日本語文献は、単行本、論文1(学術雑誌所収)、論文2(記念論文集・アンソロジー所収)、全集・叢書、の順とし、また外国語文献については、単行本、論文1(学術雑誌所収)、論文2(記念論文集・アンソロジー所収)の順とした。更にそのなかでの配列は、発行年(月日)順を原則とした。

※以下の〈データベース〉のサンプルについて、ご意見やご感想、あるいはご助言等がございましたら、ぜひ本研究班のメンバーまでお伝えくださいますよう、お願い致します。

I 日本語文献

① 単行本

書名	著者	編者	出版地	出版社	発行年	分類	備考
浄邦縁熟して 宗祖と読む「観経」序分	寺川俊昭		大垣	真宗大谷派大垣教務所	2005.1	講義・講話	
楽しくわかる歎異抄(下)	和田真雄		京都	法蔵館	2005.2	一般書	
浄土文類聚鈔講讀	徳永一道		京都	永田文昌堂	2005.3	学術書	
浄土真宗の教え 蓮如上人を中心に	林 智康		京都	探究社	2005.4	講義・講話	
浄土真宗聖典三経往生文類・如来二種回向文・弥陀如来名号徳 現代語版		教学伝道研究センター	京都	本願寺出版社	2005.5	学術書	
大無量寿経講義 三十四(第三十四願~三十六願)	宮城 顕		大阪	大地の会	2005.6	講義・講話	
うちのお寺は 真宗大谷派			東京	双葉社	2005.7	一般書	坂東浩監修
正像末和讃を読む 悲泣にはじまる仏道		真宗大谷派大阪教区出版会議	大阪	真宗大谷派大阪教務所	2005.9	講義・講話	
存在の大地	高史明[他]		京都	東本願寺出版部	2005.10	一般書	
妙好人の詩	菊藤明道		京都	法蔵館	2005.11	一般書	

② 論文1 (学術雑誌所収)

論文名	著者	雑誌名	号数	出版社	発行年	分類	備考
清沢満之における「歎異抄」の受容とその背景	西本祐攝	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
金剛心の行人	斉藤 研	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
至誠心積における真実の意義	清水谷正尊	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
親鸞の無戒思想—末法の仏者とは—	森 剛史	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	

『論註』における「応知」と二種法身説	藤枝宏壽	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
親鸞における「仏智疑惑」とは何か	菱木政晴	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
悪人正機説と本覚思想	徳永道雄	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
近世山村社会における真宗道場の性格 —越中国射水郡葛葉村名苗家を事例として—	松金直美	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
信心評論の一考察—法然門下の議論と関連して—	春木憲文	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
新出佛光寺蔵『教行信証』の意義 —『六要鈔』所釈本の行方—	佐々木瑞雲	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
聖覚の行実の評価をめぐって —法然・親鸞との連続・非連続性—	河智義邦	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
江戸時代、十七世紀の『歎異抄』受容の例について	原田哲了	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
専修念仏弾圧と貞慶伝—「興福寺奏状」再考—	下間一頼	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
真宗本派同志会と『教界時事』	龍溪章雄	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	論文	
現代における真宗伝道の課題	上山大峻	真宗研究	50	真宗連合学会	2006.1	講義・講話	記念講演
願生浄土の自覚道—帰命と願生—	小野蓮明	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	論文	
無窮の志願—「坂東本」修復・復刻事業を通して—	三木彰円	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	論文	
現在の信念における無限大悲の実現—清沢満之における 「現在安住」の時間的側面に関する考察—	西本祐攝	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	論文	
還相の利益—「還相回向釈」、「善巧撰化章」から「障菩提 門」への展開を中心として—	小川直人	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	論文	
永遠不生の世界—入出二門の源泉—	安田理深	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	講義・講話	1976.7.16 (述) 岐阜慈光会
自利と利他—第三の人生観(八)—	金子大栄	親鸞教学	87	大谷大学真宗学会	2006.3	講義・講話	1973.10.15 (述) 大谷大学集中講義

③ 論文2 (記念論集・アンソロジー所収)

論文名	著者	書名	編者	出版地	出版社	発行年	分類	備考
和讃雑考	小串 侍	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
親鸞聖人の伝統相承	小島淑成	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
真宗安心論序説	寺倉 襄	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
「華嚴経」における煩惱と大悲	山田亮賢	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
中国仏教儒教道教古蹟調査記	道端良秀	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	1985.12 (脱稿)
和讃「不」による大非即大悲	川瀬和敬	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	1985.9.14 (脱稿)
「往生要集」における倫理観	藤井智海	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
真仏土と化身土	櫻部 建	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
大乘菩薩思想の精華	宇治谷祐顕	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
聖徳太子における一大乗仏教とその実践	武田賢寿	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
中国仏教考	浜田耕生	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	

『六要鈔』所引の智光の『無量寿経論釈』について	島津現淳	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
ヴァイシェーシカ学派の非存在論	本多 恵	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
信仰告白の位義	池田勇諦	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
香月院と梵文阿弥陀経	畝部俊英	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
浄土荘嚴の意義—唯除の自覚—	尾畑文正	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
否定と乗願—社会的立場における二種深信—	田代俊孝	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
親鸞の二種回向観—凡夫往生道の確立—	広瀬 惺	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
親鸞聖人と『華嚴経』—特に一乗海積段の涅槃華嚴の連引を中心として、	中村 薫	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	1985.12.1 (脱稿)
「大経」重誓偈の諸貧窮	小倉 求	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
十四段本『善信上人親鸞伝絵』の成立—新出『御伝鈔』をめぐって—	織田顕信	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
「不請の阿弥陀仏」私考	沼波政保	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
部落差別と業の思想	近藤祐昭	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	

宗存版一切経ノート	小山正文	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	1985.8.23 (脱稿)
登高座所作法詳解	瀬尾顕証	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
親鸞聖人の「夢告」とユング心理学	目幸黙僊	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
ミリダバンハーにおける慧について	玉井 威	論集真宗学とその背景	同朋大学 仏教学会	名古屋	同朋大学 仏教学会	1986.5.1	論文	
教団の実践としての教化—大谷派の同朋会運動—	池田勇諦	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
願生浄土	寺川俊昭	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
行信から行証へ—真宗仏道の積極性—	小野運明	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
本願の仏地	神戸和磨	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
親鸞の「信」と道元の「信」	加藤智見	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
楊仁山と小栗栖香頂 —特に真宗七高僧に関する論争について—	中村 薫	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
浄土仏教の基盤—末法史観の意味するもの—	廣瀬 惺	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
一切莊嚴皆説法	瀬尾顕証	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	

真宗教化の現場における言語	小妻典文	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
『選集抄』にみる仏教説話の教化性について	沼波政保	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
人間働きについて—その関係・構造及び展開—	戸田信正	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
真宗人の社会関与考	北畠知量	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
『比良山古人靈託』の善念と性信	小山正文	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
清沢満之の墨蹟について	青木 馨	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
大谷大学図書館楠丘文庫蔵『親鸞聖人御因縁』翻刻及び対校表(一)	渡辺信和	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
日本における生命倫理教育事情	田代俊孝	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
真宗仏教と現実社会—宗教的生命の回復を求めて(真宗大谷派を通して)—	尾畑文正	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	
『阿弥陀経』における七重欄楯・七重羅網・七重行樹について	畷部俊英	池田勇諦先生退任記念論集 真宗の教化と実践	同朋大学 仏教学会	京都	法蔵館	2002.10	論文	

④全集・叢書

・宮崎円遵著、宮崎円遵著作集編集委員会編『宮崎円遵著作集 親鸞の研究（上）』第1巻、永田文昌堂、1986年4月

論文名	初出の掲載雑誌・著書・年月	分類	備考
親鸞聖人伝素描	『大乘』第6巻第1～2号 1955.1～2	論文	
親鸞の生涯	『親鸞聖人』 1973.3	論文	
親鸞の歩んだ道	『大世界』第11巻第10号 1956.10	論文	
吉水時代の親鸞	『龍谷大学論集』第343号 1952.2	論文	
旅の親鸞	『大法輪』第23巻第5号 1956.5	論文	
親鸞聖人関東教化の一齣	『龍谷史壇』第30号 1943.7	論文	
親鸞の帰洛	『龍谷史壇』第36号 1952.2	論文	
帰洛後の親鸞聖人	『大乘』第11巻第1～2号・第4～6号 1960.1～6	論文	
晩年の親鸞	『大乘』第7巻第1号 1956.1	論文	
親鸞晩年の一側面—恵信尼帰越の年時—	『龍谷大学論集』第353号 1956.10	論文	
日野誕生院附、三室戸	『人生講座』第33号	講義・講話	1973.5.11（述） 茨城仏照寺・臨地人生講座

親鸞の吉水入室の記事について — 恵信尼の書状に見える —	『龍谷史壇』第 43 号 1958.6	論文	
親鸞の結婚と子女の順位	『統・親鸞とその門弟』 1961.6	論文	
親鸞の立場と『教行信証』の撰述	『教行信証撰述の研究』 1954.9	論文	
親鸞の立場と『教行信証』の撰述 付載『教行信証』撰述の時期について	『しんらん全集』 1959.1	論文	「教行信証の撰述年時について」の一節
『教行信証』に現れた元仁元年の年紀について	『龍谷史壇』第 34 号 1951.3	論文	
親鸞の神祇批判	『仏教史学』第 3 卷 2 号 1952.10	論文	
親鸞聖人の聖徳太子讃仰	『四天王寺』第 433 号 1976.11	講義・講話	
伝教大師と親鸞聖人	『伝教大師研究』 1973.6	論文	
愚者の系譜	『宗学院論集』第 47 号 1977.12	論文	
愚禿の名告と伝統		論文	1981.8.9 (述) 芦屋仏教会館・仏教講座、「愚禿の伝統」要旨
「いまこそんのはゝ」に就いての疑義	『龍谷学報』第 308 号 1934.2	論文	
「いまこそんのはゝ」に就いての疑義再論	『龍谷学報』第 312 号 1935.5	論文	

「いまこそせんのはゝ」私見	『龍谷大学論集』第345号 1952.12	論文	
恵信尼文書	『恵信尼文書』 1977.5	論文	
恵信尼と自筆文書	『恵信尼公』 1960.11	論文	
親鸞聖人の筆蹟点描	『墨』第18号 1979.5	論文	
親鸞聖人年譜	『龍谷大学論集』第365・6合併号 1960.12	論文	

II 外国語文献

① 単行本

書名	著者	編者	出版地	出版社	発行年	分類	備考
Shoshinge: The Heart of Shin Buddhism	text by Alfred Bloom tr. by Takaaki Nagatani (永谷孝昭) and Ruth Tabrah		Honolulu	Buddhist Study Center Press	1986		
Shinran: An Introduction to His Thought	Yoshifumi Ueda (上田義文) Dennis Hirota		Kyoto	Hongwanji International Center	1989		
Strategies for Modern Living: A Commentary with the Text of the Tannisho	Alfred Bloom		Berkeley, California	Numata Center for Buddhist Translation and Research	1992		with a Foreword by Yehan Numata

The Three Pure Land Sutras : A Study and Translation from Chinese	Hisao Inagaki (稲垣久雄)		kyoto	Nagata Bunshodo	1994		
River of Fire, River of Water : An Introduction to the Pure Land Tradition of Shin Buddhism	Taitetsu Unno (海野大徹)		New York	Doubleday	1998		
T'an - luan's Commentary on Vasubandhu's Discourse on the Pure Land : A Study and Translation	Hisao Inagaki (稲垣久雄)		kyoto	Nagata Bunshodo	1998		
Kyōgyōshinshō : On Teaching, Practice, Faith, and Enlightenment	Shinran (親鸞) tr. by Inagaki Hisao (稲垣久雄)		Berkeley, California	Numata Center for Buddhist Translation and Research	2003		
Letters of the Nun Eshinni : Images of Pure Land Buddhism in Medieval Japan	James C. Dobbins		Honolulu	University of Hawaii Press	2004		
A Life of Awakening : The Heart of the Shin Buddhist Path	Takamaro Shigaraki (信楽峻麿) tr. by David Matsumoto		kyoto	Hōzōkan	2005		

② 論文1 (学術雑誌所収)

論文名	著者	雑誌名	号数	出版社	発行年	分類	備考
A Shin Buddhist Perspective on Human Cloning	Naoki Nabeshima (鍋島直樹)	龍谷大学論集	457	龍谷学会	2001.1	論文	
Kiyozawa Manshi and the Revitalization of Buddhism	Alfred Bloom	The Eastern Buddhist	35	The Eastern Buddhist Society	2003	論文	

Two Models of the Modernization of Japanese Buddhism: Kiyozawa Manshi and D. T. Suzuki	Mineo Hashimoto (橋本峰雄) tr. by Tatsuo Murakami (村上辰雄)	The Eastern Buddhist	35	The Eastern Buddhist Society	2003	論文	
Kiyozawa Manshi and Nishida Kitarō	Masakatsu Fujita (藤田正勝) tr. by James Mark Shields	The Eastern Buddhist	35	The Eastern Buddhist Society	2003	論文	
Truth in Need: Kiyozawa Manshi and Soren Kierkegaard	Mark L. Blum	The Eastern Buddhist	35	The Eastern Buddhist Society	2003	論文	
The Way of Introspection: Kiyozawa Manshi's Methodology	Shin'ya Yasutomi (安富信哉) tr. by Robert F. Rhodes	The Eastern Buddhist	35	The Eastern Buddhist Society	2003	論文	
Shinran's View of Man: The Self-Realization of the Ignorant Being and the Possibility of Attaining Buddhahood	Ichigyo Oyama (小山一行)	国際文化研究所論叢	14	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部国際文化研究所	2003.8	論文	
On the Philosophical Reconstruction of Shinran's Thought—with a Special Reference to Yin-Shun's Understanding of Pure Land Buddhist Thought	Joaquim Monteiro	同朋大学仏教文化研究所紀要	24	同朋大学仏教文化研究所	2004	論文	
The Unity of Polarity in Shinran's Religious Experience: That Which Is Empty and False & That Which Is Unsurpassed	Hoyu Ishida (石田法雄)	滋賀県立大学国際教育センター研究紀要	10	滋賀県立大学国際教育センター	2005.12	論文	

Realm of Heavens (devaloka), Land of Bliss (Sukhavati), and the Pure Land: The Conception of the Pure Land in Shinran's Thought	Ichigyō Oyama (小山一行)	筑紫女学園大学・筑紫女学園大学短期大学部紀要	1	筑紫女学園大学	2006	論文	
---	-------------------------	------------------------	---	---------	------	----	--

③ 論文2 (記念論集・アンソロジー所収)

論文名	著者	書名	編者	出版地	出版社	発行年	分類	備考
Introduction: The Study of Rennyo	Mark L. Blum	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
The Life of Rennyo: A Struggle for the Transmission of Dharma	Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Leaders in an Age of Transition	Toshio Kuroda (黒田俊雄) tr. by Thomas Kirchner	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Continuity and Change in the Thought of Rennyo	Stanley Weinstein	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Rennyo and the Salvation of Women	Naoko Matsumura (松村尚子) tr. by Maya Hara	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
The Ikkō-shū as Portrayed in Jesuit Historical Documents	Shizuka Kinryū (金龍 静) tr. by William Londo	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	

The Kanshō Persecution: An Examination of Mount Hiei's Destruction of Otani Honganji	Kenshi Kusano (草野顕之) tr. by Eisho Nasu (那須英勝)	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Late Rennyo and the Myōkōnin Akao no Dōshu	Ryōen Minamoto (源了圓) tr. by Mark L. Blum	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Rennyo Shōnin, Manipulator of Icons	Mark L. Blum	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Shinran and Rennyo: Comparing Their Views of Birth in the Pure Land	Shunshō Terakawa (寺川俊昭) tr. by Mark L. Blum	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Rennyo's Position in Modern Shin Buddhist Studies: Soga Ryōjin's Reinterpretation	Takeshi Kaku (加来雄之) tr. by Maya Hara	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Rennyo and the Renaissance of Contemporary Shin Buddhism: Rennyo's Place in the History of Shin Buddhism	Alfred Bloom	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
The Characteristic Structure of Rennyo's Letters	Yūtai Ikeda (池田勇諦) tr. by Sarah Horton	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
The Tale of the Flesh-Adhering Mask	Shin'ya Yasutomi (安富信哉) tr. by Mark L. Blum	RENNYO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	

Renno and Luther : Similarities in Their Faith and Community Building	Chiken Katō (加藤智見) tr. by Jan Van Bragt	RENNO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Dancing into Freedom : Renno and Religion	William R. LaFleur	RENNO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	
Primal Vow and Its Contextualization : Renno's Legacy, and Some Tasks for Our Times	Ruben L. Habito	RENNO and the Roots of MODERN JAPANESE BUDDHISM	Mark L. Blum Shin'ya Yasutomi (安富信哉)	Oxford, New York	Oxford University Press	2006	論文	